

うたうたい

Yuki Shonhei

——言葉を交わせずとも私たちはつながっている。

「あの。あ。ごめんなさい。私です。演奏します。誰も聞いていないのかもしれないけれど。もし良かったら聞いてみてください。」

「静かな夜に響くメロディ。ピアノの旋律。眠れない夜に。たった独りで自分と向き合う時間。絶対に逃げるなんてできない深い夜。スピーカーから声が聞こえた。」

「あ。この曲はこれでおしまいです。次の曲は…。」

「私は現代というものに疎い。というか。社会とのズレというものに疎い。だからどのようになにがズレているのかわからない。けれど。決定的に何かが。他の誰かと。すつごくたくさん違う。そんな違和感だけを感じている。そんな違和感だけを知っている。」

「私。配信とか。放送とか。よくわからないから。だからオトが悪いかもしれないけれど。聞きにくいようでしたらごめんなさい。でも。演奏させてください。歌わせてください。……歌います。」

「この人はきつと私と似ているのだろうか。嫌な事がたくさんあったのだろうか。だからこんな深夜に。みんな。みんなが寝静まった頃に。きつと歌うのだろうか。——なんて。なんて嫌な妄想。なんて嫌な……私。私はこの人の事を何も知らないというのに。」

「次は……次の曲は……誰に言っているのかな私……それでも。歌いたいから歌います。私がそう望ん……これも……まあ……いいか……次。歌います。」

「流れる音楽。人のいる心地。近くにいた空気。私はこの人の配信を聞くようになって。生まれてはじめて、寝落ち、というものを体験した。」

「あの。……歌います。誰かが聞いてくれますように……」

「この人が歌を続けてくれますように。歌ってくれますように。私は心底願った。願い

は届かないのだと思う。だって。私とこの人の人生は永遠に交差しないのだろうか。」

「今日も、やっぱり、なにも変わらなかったけれど。歌を歌います。聞いてください。演奏します。」

「静かに静かに。ピアノの鍵盤がコトンと落ちる音から始まる音楽。音が連なつて人の声がかぶさっていく。それが音楽なんだと私は理解した。そうして伸び切る声がゆっくりおさまって。最後にピアノの鍵盤がコトンと落ちて終わるんだ。それをようやく理解した。」

「あの……。人がなんとなくいるっていう感じ。安心しますよね。……………あの。私だけかもしれないんですけど……。なんとなく。そう思います……。誰もいないのかもしれないけれど……。聞いてください。」

「私もそう思う。けれどこの人に思いを伝える方法はない。だからこの思いは決して通じ合わない。けれど。けれど。この人になにか良いことが起こりますように。この人の世界が良い人達に恵まれますように。届かなくても。私は願う。」

「今日はたくさんいろんな事がありました。いろんな事が起こりました。いろいろあったけど。……。わたし。歌が好きだから。歌います。」

「言葉は震えていた。なにかがあつたのだろう。なにかがあつたのだろうな。私はこの人の歌に救われている。いいや。この人に。救われているのだと思う。」

「……次の曲。次の曲は……。その前に。少しだけ。本当に。少しだけ。わたし。いつも思うんです。なにをしているんだろうって。皆が寝静まった頃に。ピアノを弾いて。歌って。おかしいなつて。」

「ああ。もう続けなくていいよ。歌わなくていいよ。あなたになにかがあつたのなら……。休めばいいよ。私は声のする方向に独り言になろう言葉を放つ。」

「それでも私は……。私は音楽が好きだから。それでもやっぱり歌が好きだから。……たくさんいろんな事があつても。だれかに届いているのなら。いや。もういいんです。届かなくて。届かなくていいです。もう私には歌が好き。この事実だけで十分なんです。はつきりしました。これは……。これはきつと。この歌はきつと。私のために歌っているんだ。」

「あなたが幸せでありますように。あなたがなにかを見つけたのなら。私はそれで十分なのです。だって私はこんなにも救われたから。あなたがいなかったら。あなたの歌がなかったら。きっとこの夜も。あの夜も。超える事はできなかった。だから届いています。私に。あなたの歌は届いている。ありがとう。本当にありがとう……あなたのおかげで私は救われました。」

「今日の放送……配信かな。は、これで。あの……私……今日少しおかしな事を言っただけ。気にしないでください。できれば……誰も聞いていないかも知れど。それじゃあ今日も……あの……いつも。多分……もしかしたら。うん。そうだ。きっと聞いてくれている人がいると信じて。今日は私の歌を聞いてくれてありがとうございました。また明日も。私歌います。あなたにここで会えます。だから。あなたも。……いや、そんなこと。けど。本当に今日はありがとうございました。それじゃあ。また……」

「ありがとう。どこかで歌をうたう人。知らず人を救う人。きっと私のように救われている人はたくさんいるのだろう。あなたはどうしても知ることができないけれど。私は。私はあなたに。ありがとう。うたいたいさん。」